

中部横断自動車道 リレーシンポジウム

第4回 テーマ：総括

「中部横断自動車道でつながる ・ひろがる地域の未来」

情報提供「第1回から第3回リレーシンポジウムのふりかえり等」

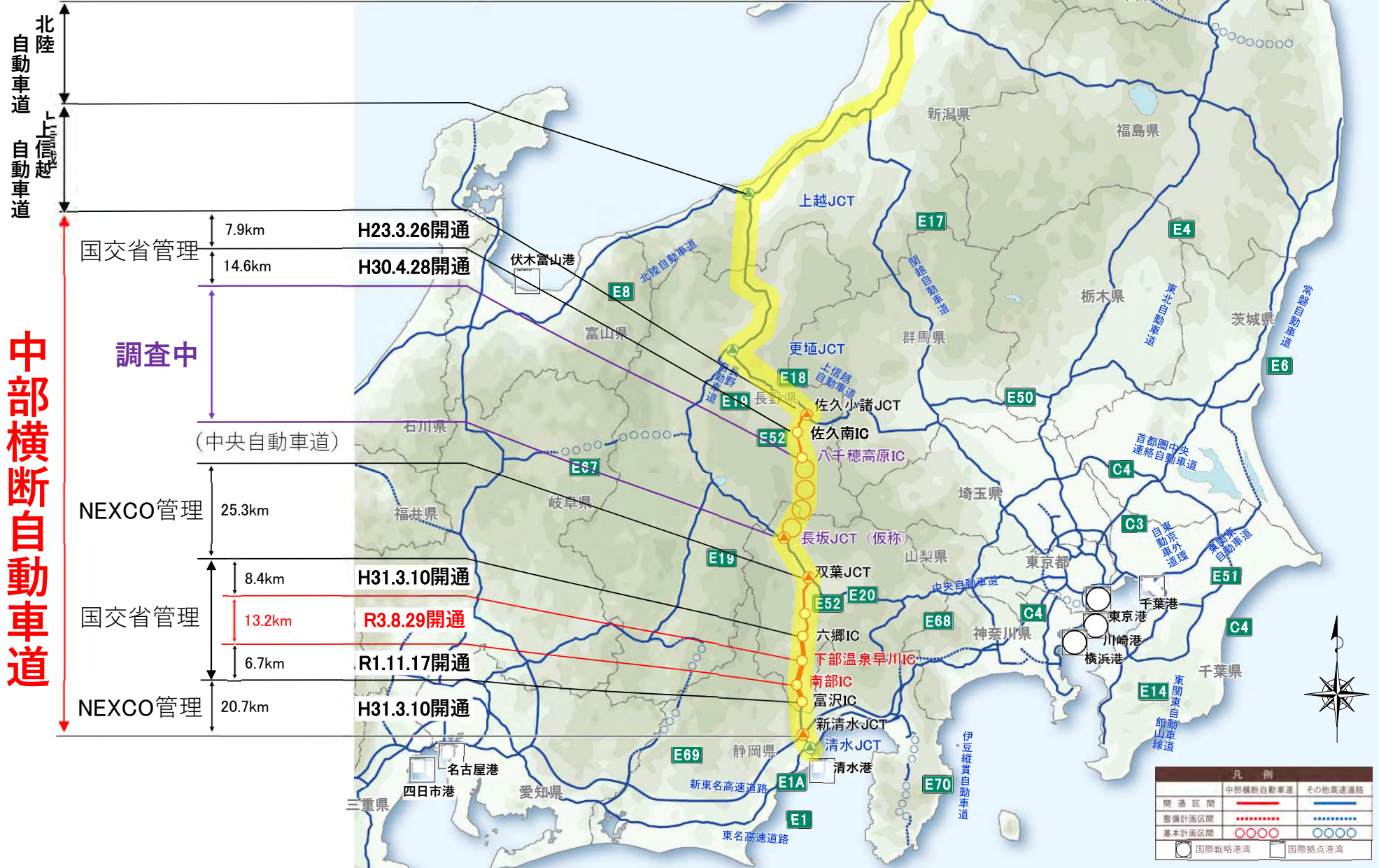
山梨県県土整備部



山梨県

中部横断自動車道の概要

● 将来、中部横断自動車道の完成により、上信越自動車道を介して太平洋と日本海を結ぶ、高速道路の南北軸が形成





開催日時・場所

令和4年3月14日(月)
14:00 ~ 15:30
(来場者受付 13:15 ~)

山梨県立図書館 イベントスペース

参加
無料

▶ 来場参加 定員:50名
▶ Web視聴 定員:300名
事前にお申込が必要です。
※詳細は裏面をご覧ください

プログラム

情報提供
「中部横断自動車道の開通効果等」(山梨県 県土整備部)

ディスカッション

●パネリスト (順不同)
小原 春人 氏 (富岳通運(株) 総務・運輸安全マネジメント事務局 課長)
新藤 和仁 氏 ((株)オギノ 物流部 総括マネージャー)
竹村 基史 氏 (鈴与カーゴネット(株) 甲府支店 甲府営業所 支店長)
原 晃彦 氏 ((株)シャトレゼ 物流部 部長)

●全体コーディネーター
佐藤 文昭 氏 ~プロフィール~
山梨総合研究所 調査研究部長、山梨県立大学特任教授
情報番組+ニュース「スゴろく」水曜コメンテーター

中部横断自動車道開通記念

第1回テーマ 産業・物流

主催 山梨県

リレーシンポジウム

つながる山梨 海と空に開かれた「開の国」へ

○小原 春人 氏

(富岳通運(株) 総務・運輸安全マネジメント事務局 課長)

⇒ 立地特性に着目し物流拠点を建設
・清水港を活用した商品調達の拡大に期待



○竹村 基史 氏

(鈴与カーゴネット(株) 甲府支店 甲府営業所 支店長)

⇒ 運送時間の短縮と定時制の確保がメリット
・清水港へのアクセス向上による船舶の活用



○新藤 和仁 氏

((株)オギノ 物流部 総括マネージャー)

⇒ 静岡県の商品の販売機会を増やし、
両県の交流を拡大したい



○原 晃彦 氏

((株)シャトレゼ 物流部 部長)

⇒ デリケートな生菓子を配送するのに優しい道
・清水港を経由して国内だけでなく海外に向けても配送



★まとめ

- 広域的拠点として山梨県のポテンシャルの高まりを実感
- ポテンシャルを最大限に発揮するためには、中部横断自動車道の4車線化と長坂以北区間の整備、中央自動車道の渋滞解消、甲府中央スマートICの整備、富士山空港や清水港との連携といった事項が必要



写真提供:国交省甲府河川国道事務所

写真提供:身延町・北杜市

開催日時・場所

令和4年6月6日(月)

14:00 ~ 15:30

(来場者受付 13:15 ~)

山梨県立図書館 イベントスペース

参加
無料

▶ 来場参加 先着:50名

▶ Web視聴 先着:300名

事前にお申込が必要です。

※詳細は裏面をご覧ください

プログラム

情報提供

県土整備部、観光文化部

ディスカッション

●パネリスト (五十音順)

居村 一彦 氏 (道の駅富士川 支配人)
 武川 尚志 氏 (清泉寮 営業企画本部長)
 半田 初幸 氏 (山梨県旅行業協会 総括理事)
 矢崎 道紀 氏 (下部ホテル 代表取締役社長)

●全体コーディネーター

佐藤 文昭 氏 ~プロフィール~
 山梨総合研究所 調査研究部長、山梨県立大学特任教授
 情報番組+ニュース「スゴろく」水曜コメンテーター

中部横断自動車道開通記念 リレーシンポジウム

主催 山梨県

第2回テーマ 観光 中部横断自動車道でつなぐ地域観光の未来

○半田 初幸 氏

(山梨県旅行業協会 総括理事)

⇒ 山梨県内への修学旅行の受入が大きく増加

・県外旅行がしやすくなった・観光の動きが活発化



○矢崎 道紀 氏

(下部ホテル 代表取締役社長)

⇒ アクセス性の向上により周辺地域と組み合わせた

周遊観光が容易に・地域全体の魅力発信に取り組む



○武川 尚志 氏

(清泉寮 営業企画本部長)

⇒ 一般道の通行止めによるリスクが軽減した

・静岡、愛知、神奈川からの来訪、修学旅行客増加



○居村 一彦 氏

(道の駅富士川 支配人)

⇒ 開通後に過去最高の売り上げを達成

・道の駅を拠点とした地域の魅力発信に取り組む



★まとめ

●整備された中部横断自動車道をうまく活用するために、地域の魅力を発掘し、その魅力を高めて、それら魅力をうまく情報発信することが観光促進に必要




中部横断自動車道(山梨～静岡間)の開通により、災害時の救助・支援活動の迅速化や、高規格幹線道路ネットワークの強化による広域迂回路の機能発揮など、本県の強靱化が進捗しました。また、高速道路を利用した救急医療活動が可能となり、救命率の向上にも貢献することが期待されます。
今回は、防災・医療の視点から、開通効果や課題、今後の展望について意見交換を行います。


開催日時・場所	プログラム
令和4年9月13日(火) 14:00～15:30 (来場者受付 13:15～) 山梨県立図書館 イベントスペース	情報提供 「防災・医療面における中部横断自動車道の開通効果等」 (山梨県 県土整備部)
参加無料 ▶ 来場参加 先着:50名 ▶ Web視聴 先着:300名 事前にお申込が必要です。 ※詳細は裏面をご覧ください	ディスカッション ●パネリスト (五十音順) 田中 満 氏 (国土交通省 関東地方整備局 道路部 交通拠点調整官) 秦 康範 氏 (山梨大学地域防災・マネジメント研究センター 准教授) 山下 博史 氏 (NPO法人 災害・ボランティア未来会 代表) 吉田 英明 氏 (中日本高速道路株式会社 八王子支社 甲府保全・サービスセンター 所長) ●全体コーディネーター 佐藤 文昭 氏 (プロフィール～ 山梨総合研究所 調査研究部長、山梨県立大学特任教授 情報番組「ニュース「スゴろく」」水曜コメンテーター)

中部横断自動車道開通記念 リレーシンポジウム 第3回テーマ 防災・医療分野 主催 山梨県
強靱な県土へ～中部横断自動車道の役割～


○田中 満 氏
 (国土交通省 関東地方整備局 道路部 交通拠点調整官)
 ⇒ ミッシングリンクの解消で災害に強い道路ネットワークが形成




○秦 康範 氏
 (山梨大学地域防災・マネジメント研究センター 准教授)
 ⇒ 土砂災害のリスクが大きい峡南地域にとって、高速道路の担う役割は非常に大きい



○吉田 英明 氏
 (中日本高速道路(株) 八王子支社 甲府保全・SC所長)
 ⇒ 峡南地域から3次医療施設への搬送時間の短縮に伴う救命率の向上は大きな効果の発現



○山下 博史 氏
 (NPO法人 災害・ボランティア未来会 代表)
 ⇒ 移動時間短縮が災害時の救命率に大きく影響
 ・災害時の初動活動を行う上で、高速道路は不可欠



★まとめ
 ●関係機関と平時から連携をとり、既存インフラを有効活用
 ●道の駅や民間施設と連携して、支援の拠点を増やしていくような展開も必要

第1回中部横断自動車道開通記念リレーシンポジウム ～産業・物流～

つながる山梨海と空に開かれた「開の国」へ

2022年3月14日開催

2021年8月29日の中部横断自動車道(山梨-静岡間)の開通を記念して、県内の関係企業・団体からパネリストを招き、開通に伴う効果や企業戦略、今後の展望等の意見交換を目的とするシンポジウムを開催しました。第1回は産業・物流をテーマに、県内の物流関連企業による活発な意見交換が行われました。



山梨県の立地特性に着目しロジパークを建設

首都圏に比べて地価が安く、大都市圏へ配送がしやすい山梨県は、中部横断自動車道の開通によって物流ネットワークが強化され、物流面での魅力がますます高まっています。

近年、頻発する災害や新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、海外からの調達品を国内の倉庫に一定期間溜めておく「在庫型サプライチェーン」という考え方が生まれつつあり、当社では山梨県中央市に物流拠点である延べ床面積5万9千坪のロジパークを建設中です。このロジパークは既にお客様から100%に近い需要を頂いている状況です。

開通によって山梨県内と清水港とのアクセス性も高まり、清水港を活用した商品調達の拡大も期待しております。



運送・倉庫業
富岳通運(株)
総務・運輸安全管理事務局長
小原 春人氏

清水港とのアクセス向上！RORO船を活用し輸送効率をアップ



運送業
鈴与カーゴネット(株)
甲府支店甲府営業所支店長
竹村 基史氏



中部横断自動車道開通の一番のメリットは、**運送時間の短縮と定時性の確保**であり、今まで片道300kmであった配送圏域が片道330km~350km程度まで拡大しました。

清水港へのアクセスが向上し、RORO船[※]を活用しやすくなったことも大きなポイントです。RORO船を活用することで、積卸し時間の短縮が見込まれ、従業員の負担軽減にも繋がり、労務管理の改善や品質の向上が期待されます。

また中部横断自動車道が開通したことで、山梨県が中京方面と北関東方面などを結ぶスイッチポイント(物流の中継地点)となることが期待されます。

※ RORO船(Roll-On Roll-Off)：貨物を積載したトラックやトレーラーごと輸送可能な船舶

商圏が拡大！静岡県がより身近に

当社の食料品取扱店舗は、笛吹市の物流センターから90分圏域に立地していることを目安に40店舗を展開しています。中部横断自動車道の開通により沿線の店舗への配送効率が向上したことに加え、90分圏域が拡大したため静岡方面が新たな商圏となる可能性が期待できます。限られた台数のトラックを効率的に運用することが重要だと考えています。

当社では静岡県産品を店舗で販売する「静岡フェア」を年に数回開催しており、毎回大変な好評をいただいています。中部横断自動車道の開通を機に、静岡県の商品の販売機会を増やし、両県の交流を拡大したいです。



総合小売業
(株)オギノ
物流部
総括マネージャー
新藤 和仁氏

こだわりのスイーツを全国・海外に！商品の安定的な供給を実現



製造・販売業
(株)シャトレゼ
物流部部长
原 晃彦氏



中部横断自動車道は安定して走りやすく、デコレーションケーキなどのデリケートな生菓子の配送にあたって非常に優しい道です。静岡方面への配送時間も30分~1時間程度短縮され、ドライバーの負荷軽減にもつながっています。当社の商品の8割程度は、山梨県内の自社工場で生産しており、清水港を経由して国内だけでなく海外に向けても配送しています。これまで清水港に向かう場合は、国道52号経由で一日あたり1~1.5往復が限界でしたが、中部横断自動車道の開通により一日あたり2往復が可能になり、配送がより効率的になりました。

課題・懸念材料：道路投資で「物流の2024年問題」に対応

- 物流の2024年問題[※]がある中で、事故や渋滞等により輸送時間が伸びると、ドライバーが商品を届けられないというリスクが生じる可能性がある。(新藤)
- 物流の2024年問題[※]を踏まえ、いかに安定的、効率的に輸送を実現するかということが重要であり、道路整備の果たす役割が大きいと言える。(佐藤)
- ドライバーの労務環境の改善は業界全体で取り組むべき課題であり、中部横断自動車道の4車線化や中央道小仏トンネルの渋滞解消による輸送時間の安定化が重要。(原)
- 共同配送などの輸送システムの改善と、渋滞対策などの交通網整備の両面で輸送時間を縮減していくことが課題と考えられる。(小原)
- 適正な価格で商品を輸送するというのが物流業の大きな課題。お客様に納得いただけるメニューの提示が重要と考えている。(竹村)

※ 物流の2024年問題：働き方改革関連法によって、2024年4月からトラックドライバーの時間外労働時間の上限規制(年間960時間)が適用されることで生じる諸問題。ドライバーの労働環境が改善される反面、想定外の交通事故や渋滞により輸送時間が伸びると、労働時間の規制によって最終目的地までの輸送ができないといった問題が生じる可能性がある。

今後の展望・期待：防災、環境、働き方、ネットワークに配慮した持続可能な物流を

- 中部横断自動車道長坂以北の整備は、山梨県の物流のハブ機能を強化するだけでなく、災害時の輸送など防災面でも重要な役割を果たすと考えられる。富士山静岡空港も積極的に活用したい。(小原)
- CO2削減による環境負荷低減が物流企業の使命であり、中部横断自動車道を追い風とした持続可能な物流を実現していきたい。(竹村)
- 共同配送などの効率的な物流を実現するにあたって、新山梨環状道路や新たな御坂トンネルなどの新たな道路網の拡充に期待している。(新藤)
- 中部横断自動車道長坂以北の整備による原材料の調達網の強化や、清水港の航路拡大によるさらなる輸出拡大に期待している。(原)

今後期待される道路ネットワーク整備



中部横断自動車道の開通により、広域物流拠点としての山梨県のポテンシャルが向上

中部横断自動車道の開通によって輸送時間短縮や配送効率の向上といった効果が物流関連企業に現われており、広域物流拠点としての山梨県のポテンシャルの高まりを実感いたしました。山梨県が物流拠点としてのポテンシャルを最大限に発揮するうえでは、開通した中部横断自動車道の4車線化、中央道の渋滞解消といった既存インフラの改良に加えて、中部横断自動車道長坂以北区間や甲府中央SICなどの新規整備、富士山静岡空港や清水港との連携といった事項の必要性が確かめられました。

また議論の中では、労働環境改善やドライバーの確保など物流業界が抱えている課題が浮き彫りになりました。物流業界が持続可能であるためには、業種を越えた連携や荷主側の理解などのソフト面からのアプローチも取り入れていくことが大切と言えるでしょう。



コーディネーター
山梨総合研究所調査研究部長
山梨県立大学特任教授
UTYテレビ山梨「スゴろく」
(水曜コメンテーター)

佐藤 文昭氏

リレーシンポジウム 全体の流れ(全4回)

第1回	第2回	第3回	第4回
産業・物流分野	観光分野	防災・医療分野	総括

第2回中部横断自動車道開通記念リレーシンポジウム ～観光～ 中部横断自動車道でつなぐ地域観光の未来

2022年6月6日開催

2021年8月29日の中部横断自動車道（山梨-静岡間）の開通を記念して、県内の関係企業・団体からパネリストを招き、開通に伴う効果や企業戦略、今後の展望等の意見交換を目的とするシンポジウムを開催しました。第2回は観光をテーマに、県内の観光関連企業による活発な意見交換が行われました。



県内から県外へ、県外から県内へ、観光の動きが活発化！

山梨県内から県外へというアウトバウンドの視点では、中部横断自動車道（山梨-静岡間）の開通により県外への所要時間が大きく短縮され、甲府や峡北地域から、静岡や愛知など県外への旅行がしやすくなったということが挙げられます。県外から山梨県内へというインバウンドの視点では、教育旅行助成金の効果もあり修学旅行が大きく増加しました。中部横断自動車道の開通によるアクセス性の向上に加えて、グリーンゾーン認証制度[※]などコロナ禍における山梨県独自の取組みもプラスに働いていると言えます。

[※] グリーンゾーン認証制度：「山梨全体で安心・信頼を提供」することをテーマに、感染症に強い事業環境づくりを後押しする制度



旅行業協会
山梨県旅行業協会
総括理事
半田 初幸氏

高速道路開通を追い風に！地域の魅力を発信する宿泊施設へ！



宿泊業
下部ホテル
代表取締役社長
矢崎 道紀氏



下部ホテルは、武田信玄の隠し湯としても知られ、およそ1200年の歴史を持つ下部温泉に立地しています。近年はグランピングやプライベート打上花火など、様々な取り組みを実施し、幅広い層の方々に来ていただいております。

当ホテルは中部横断自動車道・下部温泉早川ICに近く、開通によりアクセス性が格段に向上したことで、身延山久遠寺、富士川クラフトパーク、本栖湖などの周辺観光地と組み合わせた周遊観光が容易になったという声を多く頂いております。

私自身は宿泊業の経営に加えて、地域密着型の旅行会社、南山梨ツアーズや、地域の事業者の方と一緒に観光情報を発信する一般社団法人SZAC南山梨を立ち上げ、峡南地域全体の魅力を知っていただくような取り組みを実施しています。

清里高原に新たな風！修学旅行先としての人気上昇中！

清泉寮は「癒しと再生」をキャッチフレーズに、山梨県北部、峡北地域に位置する清里高原にて宿泊体験や自然体験を提供する施設です。数年前に中部横断自動車道の山梨・長野間が部分開通（佐久小諸JCT～八千穂高原IC）したことで、群馬県や栃木県など北関東のお客様も清里に来ていただいている実感もございますが、今回の中部横断自動車道の開通後、静岡・愛知・神奈川方面からのお客様にも大変多く訪れていただいております。

また清泉寮は修学旅行の滞在先として選ばれる機会が増えています。これまで静岡方面から清泉寮へアクセスする道路は国道52号のみでしたが、大雨による通行止めの懸念があることから、修学旅行先として選ばれにくい状況でした。中部横断自動車道が整備されたことで、通行止め等のリスクが軽減されたことが大きな効果といえます。



施設業
清泉寮
営業企画本部長
武川 尚志氏

立ち寄り利用者が大幅増！地域の魅力発信の取組みも拡大中！



道の駅
道の駅 富士川
支配人
居村 一彦氏



道の駅富士川は甲府盆地の南端、峡南地域の玄関である富士川町に立地し、中部横断自動車道の増穂PAが併設された道の駅です。道の駅富士川は日曜朝市をはじめ、イベントを頻繁に実施し、多くのお客様に好評いただいております。

中部横断自動車道（山梨-静岡間）の開通による恩恵は大変大きく、道の駅富士川に立ち寄るお客様が増えたことで、昨年度は過去最高の売り上げを達成しました。

今年4月には、道の駅の周辺地域のことをより知ってもらいたいという思いから、地産地消にこだわったパウムクーヘン工房「ARURA」を設立しました。レンタサイクルの貸出しも実施しており、道の駅を拠点とした地域の魅力発信に取り組んでいます。

開通後の課題：地域資源を活用した“訪れたい”沿線地域づくり

懸念事項：高速道路開通に伴い沿線地域が素通りされてしまう可能性（ストロー効果[※]）

<p>地域固有の価値の拡充</p> <p>清里のペンションが修学旅行の分宿[※]先として注目を集めているように、地域が持っている価値を最大限に活用することが重要。（半田）</p>	<p>地域内の施設の競合から協働へ</p> <p>短縮された分の時間を使って滞在してもらうためには地域全体で効果的な情報発信を実施することが重要であり、エリア内の施設が競合から協働へ向かうことが大切。（武川）</p>
<p>地域全体の魅力発信</p> <p>ホテルだけでなく、地域としての魅力を高め、幅広い層に下部温泉をはじめ峡南地域のことを知っていただく機会を提供していくことが重要。（矢崎）</p>	<p>道の駅の情報発信拠点としての役割</p> <p>お客様に道の駅を拠点として地域に足を運んでもらえるよう、レンタサイクルなどの取組みを継続しながら、情報発信の拠点としての機能を高めることが重要。（居村）</p>

[※] ストロー効果：交通網の開通により、人や物が大都市などに吸い取られる現象

[※] 分宿：修学旅行などの団体旅行者が分かれて宿泊する形態。コロナ禍の密の回避方法として注目を集めている。

今後の展望：長坂以北区間の整備等、今後に向けた魅力発信について

<p>道路整備と合わせた観光コンテンツの磨き上げ</p> <p>山梨県は道路インフラ、観光施設など、観光旅行の受け皿として十分に役割を果たしている。今後広域的なPRとエリアの中での周遊観光の連携により、地域の魅力を拡大、発信していくことが重要である。（半田）</p>	<p>多様な連携による地域観光の推進</p> <p>移住者など新たな地域活力の発掘、教育旅行や個人旅行をきっかけとしたリピーター獲得、中部横断自動車道沿線の峡南地域との情報交換等、取組みを実施していきたい。（武川）</p>
<p>人のつながりを生かした魅力発信</p> <p>身延山久遠寺などの歴史文化スポットに加えて、和紙や印章、硯などの伝統工芸品も大きな武器になる。人同士のつながりを生かし、地域全体で魅力発信に取り組む。（矢崎）</p>	<p>地域資源のPR機会の拡充</p> <p>中部横断自動車道長坂以北区間の開通で、来訪機会さらなる増加が期待される。販売しているパウムクーヘン材料の生産地を巡る「富士川の恵みツアー」といった新たな取組みも検討していきたい。（居村）</p>

中部横断自動車道の開通が、地域観光の取組み拡大を後押し



コーディネーター
佐藤 文昭氏

コロナ禍においても、修学旅行先や個人旅行先として山梨県の注目が集まっており、中部横断自動車道（山梨-静岡間）の開通、山梨県の徹底した感染症対策など、様々な要素がプラスに働いているものと思われます。一方で高速道路がつながったことにより、沿線地域が素通りされてしまうことを皆様も懸念されていることも確かめられました。観光の目的地となる地域づくりが重要であり、それぞれの施設や地域の方々の取組みをいかに結び付けていくということが大きな課題だと感じるところです。今後の展望に関する議論では、自然や伝統工芸、その場所の人々のつながりといった地域固有の価値を磨き上げ、発信していくことの重要性が確かめられました。道の駅を地域の情報発信拠点として機能させたり、下部ホテルの矢崎さんのように地域密着型のツアー会社を立ち上げたりと、道路が開通したことのメリットを最大限生かしていけるような取組みが、山梨の魅力づくりにつながるのではないかと考えています。

第3回中部横断自動車道開通記念リレーシンポジウム ～防災・医療～

強靱な県土へ～中部横断自動車道の役割～

2022年9月13日開催

2021年8月29日の中部横断自動車道(山梨-静岡間)の開通を記念して、関係企業・団体からパネリストを招き、開通に伴う効果や課題、今後の展望等の意見交換を目的とするシンポジウムを開催しました。

第3回は防災・医療をテーマに、防災・医療に携わる方々から、中部横断自動車道の果たすべき役割などについて、意見交換が行われました。



ミッシングリンクの解消で災害に強い道路ネットワークが形成

国土交通省では近年激甚化・頻発化する災害に対して、ミッシングリンク[※]の解消等の災害に強い道路ネットワークの構築や、避難・救命活動の支援、危機管理体制の強化を実施しています。

令和元年台風19号にて、首都圏と山梨を結ぶ国道20号、中央自動車道、JR中央線の主要幹線すべてが約1週間にわたり不通となりました。首都圏から静岡県を経由して山梨県への災害復旧支援活動に向かった職員からは、当時は中部横断自動車道が全線開通していなかったため、甲府へ辿り着くのに苦労したと聞き、災害時の高速道路ネットワークの重要性を改めて痛感したところです。

※ミッシングリンク：高規格道路網の一部が未整備のため途切れている区間。中部横断自動車道の開通により、山梨-静岡間のミッシングリンクが解消。

▼災害時における交通網の寸断



道路管理者
国土交通省
関東地方整備局 道路部
交通拠点調整官
田中 満氏

高速道路の迅速な復旧が、被災地支援に大きく貢献



学識者
山梨大学
地域防災マネジメント
研究センター 准教授
秦 康範氏



出典：平成18年度国土交通省 国土技術研究開発資料

災害時に人員や物資の運搬には、道路の利用が前提となり、道路の迅速な復旧が極めて重要です。災害時の復旧が早いことが高速道路の特徴であり、2004年の新潟中越地震では発災から約19時間後には緊急車両の通行が可能になりました。2011年の東日本大震災では内陸部の東北自動車道が発災翌日には仮復旧し、沿岸部への道路啓開が迅速に実施されました。高速道路の復旧の早さが、被災地の支援に貢献した事例です。

中部横断自動車道沿線の峡南地域では緊急輸送道路に指定されている国道でも土砂災害のリスクが大きいことを考えると、中部横断自動車道の担う役割は非常に大きいと言えます。

沿線地域に防災・医療の大きな効果が発現

防災面の効果として、代替路の確保が期待できます。峡南地域を南北に貫く国道52号や県道富士川身延線は、降雨による通行規制区間が多く緊急時のリスクが高いのに対して、中部横断自動車道は一般道よりも降雨による通行止めの頻度が低いと考えられます。

医療面の効果では、峡南地域の3次医療施設[※]へのアクセス性が向上しました。中部横断自動車道の本線開通に伴って、3次医療施設への搬送時間が南部町で約32分短縮するとともに、3次医療施設への1時間以内搬送可能な圏域も拡大し、救命率の向上に寄与していると言えます。

※3次医療施設：重篤患者への医療、地域の救急患者の最終的な受入れを担う医療施設。山梨県内では県立中央病院(甲府市)の1箇所のみ。

▼3次医療施設と1時間カバー圏域



道路管理者
中日本高速道路株式会社
八王子支社
甲府保全・サービスセンター
所長
吉田 英明氏

1分1秒の時間短縮が災害時の救命率に大きく影響



災害救援
NPO法人
災害・ボランティア
未来会 代表
山下 博史氏



高速道路は、医療救護、自衛隊派遣、支援物資輸送等、災害時の初動活動を行ううえで不可欠な存在です。

東日本大震災の直後、要請を受け山梨県から宮城県へ向かいましたが、高速道路経由では約16時間、一般道経由では約40時間かかり、災害時の高速道路と一般道の差が大きく顕れました。

災害医療の面でも、近隣の病院が被害を受けた場合など、遠方の病院への搬送が必要な場合に、高速道路が大きな役割を果たします。高速道路は路面の段差が少なく、搬送される患者への負担も小さいという点もメリットです。緊急時には1分1秒の遅れが救命率に大きく関わるため、中部横断自動車道の開通は沿線地域にとって大きな効果と言えます。

開通後の課題：ハード・ソフト両面からの災害への継続的な備え

激甚化・頻発化する災害への備え

甲府盆地は非常に広い範囲で浸水リスクを抱えています。このような地域では高速道路を避難場所として活用することも考えられます。(秦)

暫定2車線区間への対応

中部横断自動車道は、暫定2車線[※]区間であるため緊急車両等の追越しが難しい構造です。災害時に本線上に滞留車両が発生した場合、復旧までの通行経路の確保が困難になる懸念があります。(古田)

※暫定2車線：4車線以上で計画された道路のうち、2車線のみを暫定的に供用するもの。整備費用を抑えて、早期に開通させることが可能。

中部横断自動車道の有効活用

災害を見据えて今後どのように中部横断自動車道を活用かが課題です。災害対応には、災害前、発災直後、復旧の3段階がありますが、災害前の備えが特に重要です。ハード整備も重要ですが、いざというときに的確に動けるよう、道路管理者や警察、消防、地域の方々と平時からの連携が重要です。(田中)

災害時の高速道路の適切な運用制度

災害時、支援等のため通行が必要な車両が円滑に高速道路を利用できるよう、ボランティア活動への支援のあり方も含めて、運用制度を工夫していくことが重要と考えられます。(山下)

今後の展望：“フェーズフリー”の思想、広域道路ネットワークの整備

フェーズフリー



平時は遊び場、非常時は避難場所として利用できる屋上スロープ(徳島県・道の駅くるくるの門)

平時と災害時を一体的に考える“フェーズフリー”の思想が重要です。平時と災害時の両方の場面で機能が発揮できるよう、ハードとソフトが一体となってインフラを構築、利活用していくことが必要と言えます。(秦)

広域道路ネットワークの整備



中部横断自動車道長坂以北区間の整備も見据えつつ、今ある資源を最大限活用していきたいです。(田中)

新山梨環状道路等の県内の道路が連携していくことで、より利便性が高まると言えます。(吉田)

平時・災害時、ハード・ソフト、行政・民間の連携の重要性を再確認



コーディネーター
山梨総合研究所調査研究部長
山梨県立大学特任教授
UTYテレビ山梨「スゴく」
所長
(水曜コメンテーター)
佐藤 文昭氏

今回は防災・医療分野に関わる4名の皆様からお話を頂きました。高速道路は、災害時に避難路や物資運搬路となるだけでなく、道路そのものが避難場所や支援拠点にもなるということで、まさに“命の道”という言葉の重みを感じたところです。今後、道の駅や民間施設と連携して支援の拠点を増やしていくような展開もあり得ると思います。災害への備えが、日常的にも機能を発揮できるようなフェーズフリーの考え方も非常に重要であり、関係機関と平時から連携を取りながら、既存インフラを有効活用していくことが大切だと思います。また今後、広域的な道路ネットワークがより充実していくことも大事な視点と言えるでしょう。

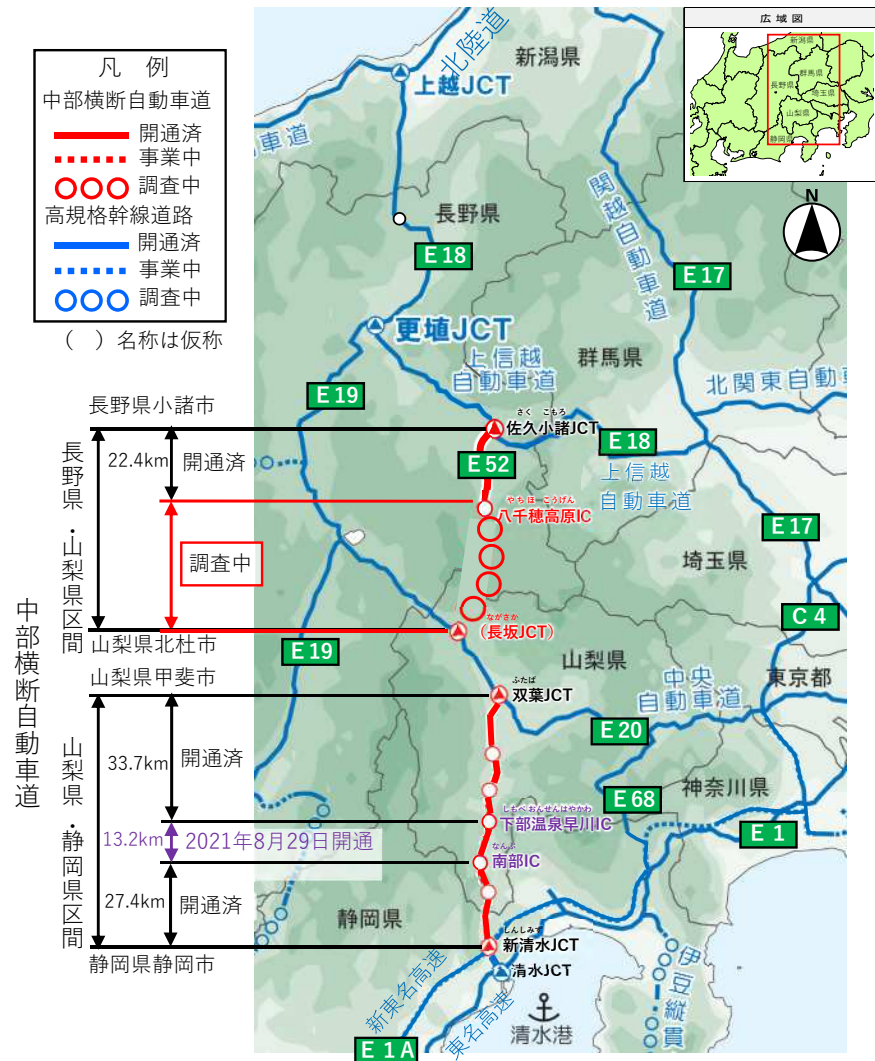
リレーシンポジウム 全体の流れ(全4回)

第1回	第2回	第3回	第4回
産業・物流分野	観光分野	防災・医療分野	総括

○ミッシングリンクとなっている中部横断自動車道（長坂～八千穂間）は、
早期事業化に向けた沿線地域の期待が高まっている

【概要】

- 凡例
- 中部横断自動車道
 - 開通済 (Red solid line)
 - 事業中 (Red dashed line)
 - 調査中 (Red dotted line)
 - 高規格幹線道路
 - 開通済 (Blue solid line)
 - 事業中 (Blue dashed line)
 - 調査中 (Blue dotted line)
- () 名称は仮称



【沿線地域の活動など】



- ・地元主催で早期整備を求める会を開催 (R1.6)



- ・山梨、長野の沿線10市町村により早期事業化を求める懇話会を設立 (R4.1)



- ・早期整備を求める要望書の提出沿線3地区より (R3.8)



沿線10市町村議会による早期実現を求める意見書 (R4.3)



- ・早期整備を求める要望書の提出3市長より (R3.8)



- ・北杜市中部横断自動車道建設促進期成同盟会設立 (R4.5)